

青柳 いづみこ

花の物語、花の音楽

～工藤あかねを迎えて～ CD・書籍同時刊行記念

Histoire et la musique de fleurs avec Akane Kudo

開演 2021年11月25日(木) 19:00

会場 サントリーホール ブルーローズ(小ホール)

主催 平河町ミュージックス実行委員会

プログラム (☆)歌

フランソワ・クーブラン: ケシ

シリル・スコット: ポピー / ロータスランド

ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト: すみれ(☆)

ロベルト・シューマン: 献呈(☆)

ジェルメーヌ・タイユフェール: フランスの花々

高橋悠治: 『福井桂子の詩』より アネモネ 薄みどりの朝の光をあびてりすさん! りすさん!(☆)

- 休憩 -

クロード・ドビュッシー: 子守唄(☆)

レイナルド・アーン: 当惑したナイチンゲールより パンジーの花束/ブリダの薔薇/クロザンドレのヘリオトロープ

エルネスト・ショーソン: リラの花咲く頃(☆)

奥村一: 花によせる3つの前奏曲

伊左治直: ルコウソウ

山田耕筈: 曼珠沙華(☆)

レーラ・アウエルバッハ: サクラの夢

大澤壽人: 桜に寄す(☆)

第50回

HiRAKAWA CHO MUSICS

平河町ミュージックス

曲目解説

1. クラヴサン曲集第4巻第27組曲より〈ケシ〉Les pavots

クーブラン François Couperin (1668-1733)

フランス鍵盤音楽史に輝く大作《クラヴサン曲集》。その最後を飾る第4巻は、作曲家がヴェルサイユ宮殿を去る1730年に出版された。巻頭には、3年前に作曲を終えながら、健康状態が悪く出版が遅れた旨が書かれている。18世紀フランス文学において、ケシは眠りの花とされている。鮮やかな花の彩りと対照的にノンシャランで演奏される短調の調べが美しい。

2. 5つのポエムより〈ポピー〉Poppies

〈ロータスランド〉Lotus Land

スコット Cyril Scott (1879-1970)

スコットが、ボードレール『悪の華』の翻訳や詩の創作に熱心だった時期の作品。〈ポピー〉(1912)、〈ロータスランド〉(1905)ともに作曲家自身による同名の詩が存在し、何れも東方趣味を想わせる官能的な詩である。ドビュッシーは、1910年ショット社宛の手紙の中で、その東方趣味に触れ、若きスコットの才能を保証している。

3. すみれ Das Veilchen K.476

モーツァルト Wolfgang Amadeus Mozart (1756-1791)

詩 ゲーテ Johann Wolfgang von Goethe (1749-1832)

モーツァルトがウィーンでフリーランスの作曲家、演奏家として名声を確立して間もない1785年の作品。自主企画の予約演奏会やハイドン、フリーメイソンのための作品を多く創作した年である。通作形式ながらリズム展開や転調を巧みに使い、すみれと少女の交流をAllegrettoで愛らしくまとめたドイツリート史が誇る傑作。

4. ミルテの花より〈献呈〉Widmung

シューマン Robert Schumann (1810-1856)

詩 リュッケルト Friedrich Rückert (1788-1866)

クララとの結婚が叶う1840年に書かれた歌曲集《ミルテの花》第1曲。ミルテの花は、ヨーロッパで花嫁衣装の装飾に用いられるという。曲集は、クララからの催促により彼女への結婚記念とされ、結婚に相応しい装丁を求めるロベルトから出版社に宛てた手紙も残っている。後奏には、シューベルト〈アヴェ・マリア〉が引用されている。

5. フランスの花々 Fleurs de France

タイユフェール Germaine Tailleferre (1892-1983)

アメリカで結婚後、南フランスの港町サナリーで暮らしていたタイユフェールが、パリ作曲界に復帰する1930年の作品。1年の半分をアメリカで過ごした夫バートンとは、前年の発砲事件により事実上離婚しているが、8曲のうち6曲には、バートンが好んだ南フランスの地名が見られる。民謡風の旋律に、洗練された和声が添えられた可憐な小品が並ぶ。

6. 『福井桂子の詩』より〈アネモネ 薄みどりの朝の光をあびてりすさん!りすさん!〉

高橋悠治 Yuji Takahashi (1938-)

詩 福井桂子 Keiko Fukui (1935-2007)

童子が走りすぎる。福井桂子(1935-2007)が亡くなる直前の詩を読み、鎌倉鶴岡八幡宮の傍、鉄の井から由比ヶ浜の黒松林への道を思い出しながら作曲。

7. 子守唄 Berceuse

ドビュッシー Claude Achille Debussy (1862-1918)

詩 ペテール René Peter (1872-1947)

友人ペテールの戯曲『死の悲劇』のための劇中歌。劇冒頭、母親が我が子のために歌うこの曲は、無伴奏の教会旋法で書かれ、これから母親に与えられる試練を予兆する。子は死神に連れ去られ、花となり天に召される時を待つ。ドビュッシー自ら共作を申し出たという戯曲の上演は実現しなかったが、1899年に作曲、出版されている。

8. 当惑したナイチンゲールより 3 morceaux de “Le Rossignol éperdu”

アーン Reynaldo Hahn (1875-1947)

アーンの1902～1910年(一部1890年代を含む)の旅日記ともいえる曲集で、各曲に残された日付や地名などの情報から、この時期のアーンの行動が垣間見える。父の故郷ハンブルクで書かれた〈パンジーの花束〉からは家族、〈クロザンドレのヘリオトロープ〉からはコクトーとの交流、曲集に先がけ単独で発表された〈ブリダの薔薇〉からは、東方趣味への関心がうかがえる。

9. リラの花咲く頃 Le temps des lilas

ショーソン Ernest Chausson (1855-1899)

詩 ブショール Maurice Bouchor (1855-1929)

1882～1890年に書かれた声楽と管弦楽のための《愛と海の詩》の第3曲〈愛の死〉の最後の部分のピアノ伴奏版。当時のフランスの文学や音楽には、古き良き時代をテーマとするものが多く、本作でも、失ったものや過ぎ去った日々へのノスタルジーが繊細に表現されている。リラの花は、日本ではライラックとも呼ばれる。

10. 花によせる 3つの前奏曲 Preludes to three flowers

奥村一 Hajime Okumura (1925-1994)

奥村が映画音楽から離れた後、1970年の作品。すでに家族と別居し、生涯大切にした母と過ごしていた時期にあたり、この年にはモノオペラ《静御前》を初演している。シンプルな構造ながら、旋律、和声ともに半音を多用した本作は、映画音楽で培われた一般性、20世紀の求める響き、様々な演奏者層の需要を確固とした技術で折衷する奥村らしい作品といえる。

11. ルコウソウ Cypress Vine

伊左治直 Sunao Isaji (1968-)

ルコウソウは細い糸のような葉(=縷)に紅の花が咲く、ということから「縷紅草」という漢字が当てられている。数多く枝分かれし、くるくると旋回し始めるのではと思わせる珍しい五角形の花、そして、うねうねと伸びる迷宮のような葉は、そのまま曲の内容に繋がる。熱帯の花であり気温が下がると枯れるという儚さとともに。花言葉は「繊細な愛」と「元気」。

12. 曼珠沙華 Higambana (The flower of death)

山田耕筈 Kosaku Yamada (1886-1965)

詩 北原白秋 Hakushu Kitahara (1885-1942)

アメリカから帰国後体調を崩し、今後は芸術のみに尽くすと誓った山田が「私の新しき路に摘み得た花の一束」と喩えた連作歌曲集《AIYANの歌》第4曲。「詩と音楽の融合」を追求した名コンビ白秋の詩を用いた最初の曲集である。1922年5月作曲。「GONSHAN(良家の娘の意)」など、白秋の故郷柳川の方言の響きが曲にアクセントを与える。

13. サクラの夢 SAKURA NO YUME (SAKURA DREAMS)

アウエルバハ Lera Auerbach (1973-)

2016年「東京・春・音楽祭」において、作曲者自身により披露されたアンコール曲。上野の桜に魅せられ、コンサート前夜に作曲したという。箏曲〈さくら〉を用い、三部形式で書かれた曲は、現実と夢の境界を描くAdagio nostalgicoと、夢あるいはこちらが現実だろうか、中間部のPiù mossoとの対比が劇的効果をもたらす。

14. 桜に寄す Une voix à "Sakura"

曲・編詩 大澤壽人 Hisato Osawa (1906-1953)

ボストンからパリへ移った翌年1935年に作曲、同年11月のパリデビュー公演にて初演された。大澤自身が指揮、ロシアのソプラノ歌手クレンコとコンセール・パドゥルーが演奏し、交響曲第2番、ピアノ協奏曲第2番と共に各誌で高く評価された。ピアノ伴奏版は、クレンコとの練習のため大澤自身が編曲したものである。

Profile



青柳 いづみこ Izumiko Aoyagi ピアノ・トーク

安川加壽子、ピエール・バルビゼの各氏に師事。フランス国立マルセイユ音楽院首席卒業、東京藝術大学大学院博士課程修了。平成元年度文化庁芸術祭賞。演奏と文筆を兼ねる稀有な存在として注目を集め、これまでリリースした19枚のCDのうち17枚が「レコード芸術」特選盤。「翼の生えた指」で吉田秀和賞、「青柳瑞穂の生涯」で日本エッセイストクラブ賞、「6本指のゴルトベルク」で講談社エッセイ賞、CD「ロマンティック・ドビュッシー」でミュージックペンクラブ賞受賞。近著に「音楽で生きて行く！」(アルテスパブリッシング)、「阿佐ヶ谷アタリデ大ザケノンダ」(平凡社)、CDに「海」(ottava)、「物語」(コジマ録音)。日本演奏連盟、日本ショパン協会理事、大阪音楽大学名誉教授。



工藤 あかね Akane Kudo ソプラノ

東京藝術大学卒業。サントリー芸術財団サマーフェスティバル、Tokyo experimental Festival、Tête à Tête The Opera Festival (ロンドン)、ダ・ヴィンチ音楽祭 in 川口、テッセラ音楽祭などに出演。数多くの初演を行う一方、ヴィエルヌ、シュルホフ、ウルマンらの演奏機会の希少な佳曲や、サティ「ソクラテス」、シェーンベルク「架空庭園の書」、「グレの歌」(第一部全曲)、「月に憑かれたピエロ」、メシアン「ハラウィ」などの大規模声楽作品も手がける。第1回「柳慧」コンテンポラリー賞受賞。妻役で出演したフランチェスカ・レロイ「THE 鍵 KEY」が第19回佐治敬三賞。

平河町ミュージックス実行委員会

実行委員:佐野吉彦(実行委員長)／西川純一

事務局:東京都千代田区平河町1-3-14 安井平河町ビル 安井建築設計事務所内

電話番号:03-3261-5101 メールアドレス:hms@yasui-archi.co.jp

Webサイト:<https://sites.google.com/view/hirakawachomusics/>

主催:平河町ミュージックス実行委員会

運営協力:株式会社ロゴバ／株式会社安井建築設計事務所

公演協力:サントリーホールディングス株式会社

協賛:鹿島建設株式会社／株式会社きんでん／三機工業株式会社／新菱冷熱工業株式会社／森平舞台機構株式会社／コトブキシーティング株式会社

後援:一般社団法人全日本ピアノ指導者協会(ピティナ)

本公演へのご感想は、当Web サイト「お申込み・お問合せフォーム」よりお寄せください。

<https://sites.google.com/view/hirakawachomusics/home/contact>

